

残したもののからわかる

1. テンの糞

テンは山地の動物のイメージがありますが、人家近くにおいても夜行性のため、あまり目撃されていません。一般に哺乳類は夜行性が多く、生息を教えてくれるのは足跡や食痕、糞です。

遊歩道を歩きながら一番目立つのが糞です。開けた場所の地面や石の上に排泄する習性によるもので、その理由は排泄中の無防備な状態のときには、周囲が見渡せる方が安全だからなのです。また、なわばりを示す意味もあります。

テンの糞とイタチの糞は似ていますが、大きさだけでなく内容物を見ることによって区別できます。雑食性のテンと肉食性が強いイタチではおのずと違ってくるのです。アケビなどの果実の種子が見られればテンです。樹上によく登るテンですが、落下した果実を食べていることがわかります。いろいろな実の種子を事前に知っておくことが、糞の主の食生活を知る手だてになります。



テンの糞
白い物はイヌビワの種子

2. 枯損木 (地図中①地点)

今の打吹山にはほとんどマツが見られません。マツクイムシで枯れたのですが、昭和年代には大木もありました。江戸時代の倉吉の町の絵図をみると、打吹山の稜線にはアカマツと思われる木が描かれています。伐採



クロマツの切株 (スケールは2m)



拡大した切株

が入った山は陽樹であるマツなどが最初に生え、やがて陰樹のシイやカシになります。枯れた木は

直ちにキノコや昆虫などにより分解されてしまうのが普通ですが、枯れた後も長く残るのがマツです。

マツは、材の中心部や根に松やにを含むため、その部分が腐らないで残ります。松やに成分の不揮発性部分は長年月のうちに琥珀(コハク)となり、たくさんの昆虫化石を原型がよくわかるかたちで残します。映画「ジュラシックパーク」で恐竜の血を吸った力を取り出せたのも「やに」の力です。

打吹山のマツの自然生はアカマツで、城のあった時代に登路の目印として植えられたクロマツは、シイの樹冠から抜きんで目立つ大木になっていました。いま、その痕跡は、長谷の木造展望台のすぐ上から左に分れる旧遊歩道で見られます。

